

(1)児童の体力の現状

- シャトルランの数値は全学年全国平均近くを記録している。持久力についてはいい。
- 低学年の長座体前屈の数値を見ると柔軟性が高い。
- 50m走は各学年が全国平均近くの数値を記録している。
- 6年男子の立ち幅跳びの数値が平均より10cm大きい。
- 6年男子のソフトボール投げの数値が高い。
- 握力の数値がどの学年も低い。学校全体の課題といえる。
- 5年生は昨年度と比較すると女子は全体的に上昇しているが、男子は下降している。
- 6年男子を除きソフトボール投げの数値が低い。
- 中学年・高学年は全国平均以下の項目が多い。

(2)令和元年度の具体目標の達成状況と課題

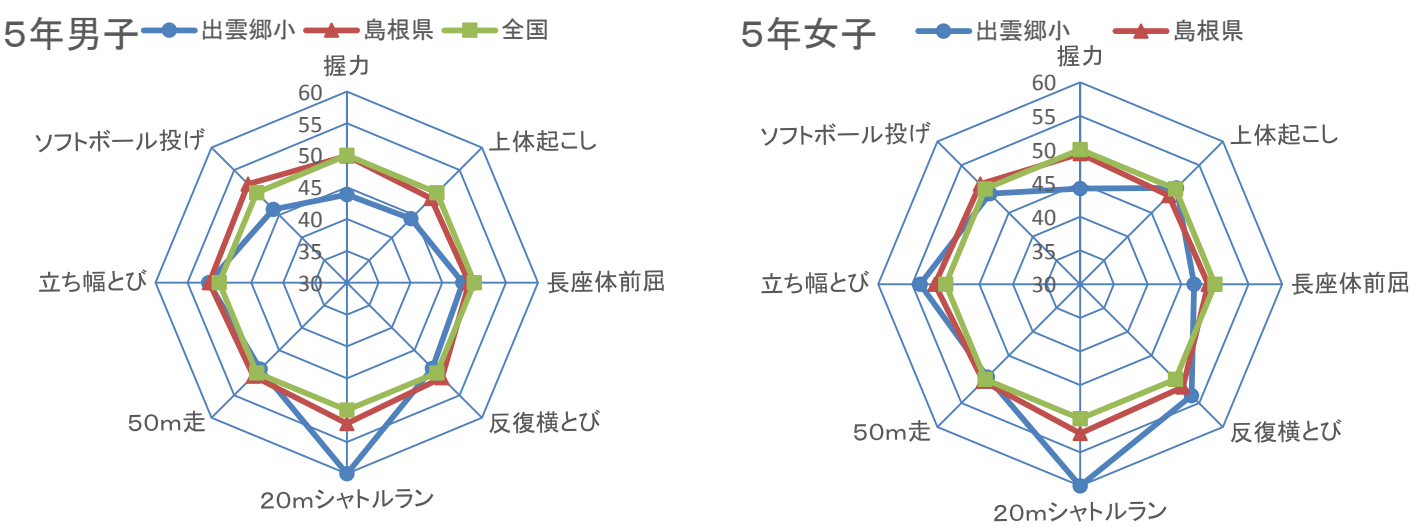
- 持久走は5年生をはじめ、向上している様子が見受けられる。
- 立ち幅跳びも同様に向上している。(5年生は昨年と比較してプラス5センチ)
- メディアコントロールの実施や、授業公開日の後の保護者も含めたメディア研修によって正しい生活を行うことの大切さを皆で周知できた。
- 体育の授業が楽しいをはじめ、昨年度と比較すると意識調査において肯定的な回答が増えた。
- ソフトボール投げはプラス3mを目標にしていたが、全体として上がらなかった。5年生に関してはマイナス8mという結果になった。
- 握力に関しては全学年が全国平均に届いていない状況である。この2項目は来年度以降の大きな課題になるであろう。
- 授業における振り返り活動についての回答が20%ほど下がっているので振り返りの活動を重視した授業づくりを行う。

(3)令和2年度の取組【対策】

- ①学校における取組
 - ・ロングタイム昼休みの設定
 - ・現在行われているなわとび大会等の行事以外にも運動に親しむ機会を創出できるように企画する。
 - ・運動量を確保するための授業を展開する。
- ②地域や家庭との連携による取組
 - ・引き続きメディアコントロールに関する周知をするための取組を継続し、規則正しい生活習慣、運動する時間の確保を地域・家庭と連携して行っていく。
 - ・お便り等で運動の必要性和現状を伝えていく。
- ③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
 - ・お便り等で積極的に伝える。
 - ・児童には「なぜ大切なのか」を日常的に伝えていく。

調査実施者数(人) 1年(男子31・女子38) 2年(男子15・女子25) 3年(男子25・女子25)
4年(男子38・女子41) 5年(男子30・女子28) 6年(男子29・女子24)

(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果

